

この後も沢は全く平凡。おまけに伐採地となって、沢は木の枝やクスでいっぱい。歩きにくいことはなほだしい。

そこを我慢して通り過ぎると、後はまた林の中となり、林道がでてくる。そして平凡なままで、腐沢との合流点となってしまった。

【タイム】 日輪寺遊歩道分岐(6:20)→820m独標(6:25)→林道終点(7:25)→腐沢出合(7:35)

夢想沢(仮称)左俣

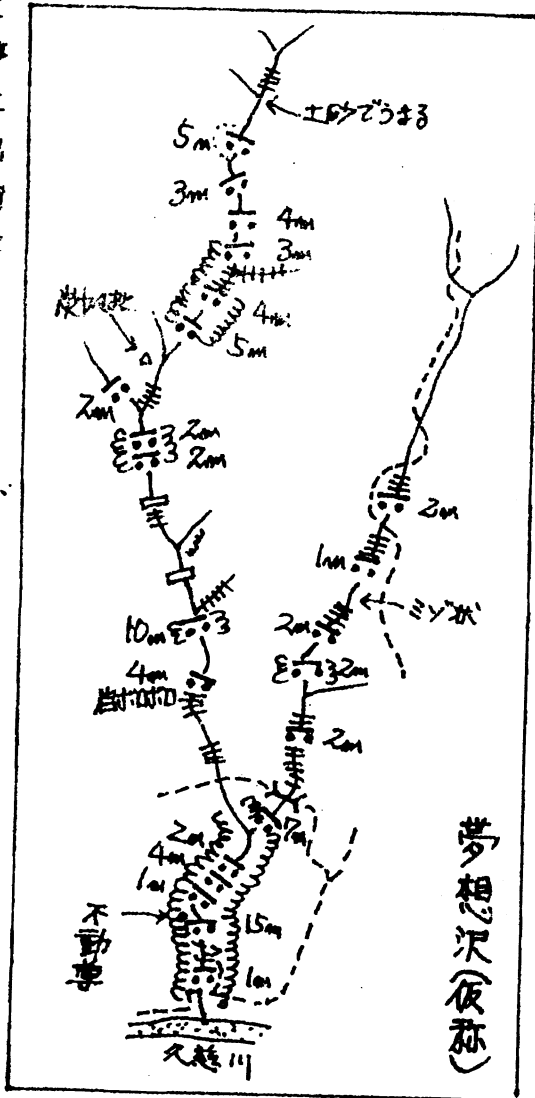
1986年5月10日

矢祭山友情の森駐車場に車を止めて仮眠し、早朝より遊行を開始する。夢想沢(仮称)は、岩壁を切り裂くように流れ出て、久慈川に合流している。出合から夢想滝までの間は遊歩道が整備されていて、訪れるハイカーや観光客も多い。

出合から5分と歩かないうちに夢想滝到着。15m程の滝である。807年に弘法大師が湯殿山を開いた時、この滝にうたれながら念仏を唱え、護摩をたき、無念夢想の境地から夢をかなえるという意味で夢想滝となづけられたといわれている。今は、右岸のハング気味になった岩壁の中腹に、一刀彫の立派な不動尊が祀られている。

右岸の岩場に刻まれた足形を利用して越える。その先は、小滝が続く。深い釜をもったものがあって、おもしろい。そして右俣出合。右俣は7m程の滝をかけて合流している。

右俣出合を過ぎると、遊歩道が沢を横切る。そして沢は平凡となる。この



沢はこれで終わりかと思いながら進んでゆくと、4mの滝が出てきた。左岸を直登するが、岩はボロボロで、ちょっと緊張した。

続いて10mの滝。下の滝とちがって、岩の方はしっかりしている。シャワーで登れそうにも思えたが、まだシーズン初め。敬遠して右岸を高捲く。あとはまた平凡となった。

砂防ダム2つと小滝をを越え、右岸から支沢2本を合わせると、沢にはまた滝が続くようになる。最後の5m滝を除いて全て直登するが、最初の2本は岩がボロボロで、だましだましの登りであった。最後の5m滝は、直登できそうにも思えたが、単独行でもり、自重して右岸を高捲く。

滝の上は、沢が土砂でうまったような感じとなっている。水の流れもほとんどなくなり、もう源流である。右俣の下降を予定しているの、沢から離れて左岸の尾根をめざす。

(1)

[タイム] 出合(4:50)→右俣出合(5:05)→左俣終了(6:10)

夢想沢(仮称)右俣

1986年5月10日

6:25下降開始。杉林の中の急斜面をぐんぐん下る。やがて小さな流れが出てきて、左岸からやや大きな流れを合わせて、はっきりした沢の形をとる。右、左と沢を縫うようにして踏跡がある。山仕事の道であろう。

コンクリートの基礎のようなものが出てきたあたりから、沢に小滝が見られるようになってきた。やがて踏跡が沢から離れてゆくと、2mの小滝が3つ続く。真中の小滝は、岩の割れ目のようになった所にかかり、体をつっかえ棒のようにして下る。別に難しいというわけではないが、平凡な右俣の中では唯一緊張感をもった所である。

3つの小滝を過ぎると遊歩道に出会う。すぐ下流に7mの滝があり、左俣と合流している。ここで沢から上がり、遊歩道を歩いて出合に戻る。(

[タイム] 右俣下降開始(6:25)→下降終了(7:00)